

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年12月6日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105016
法人名	医療法人 浜友会
事業所名	グループホーム はまゆう
所在地	鹿児島県鹿児島市喜入町6976番地1 (電話) 099-345-0099
自己評価作成日	平成30年10月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年11月16日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

院長の方針により、認知症の対応の強化を図るため、外部より講師を招き、院内研修で勉強会を実施している。また院外研修にも積極的に参加し院内での勉強会に取り入れている。さらに地域医療のサポートの為に地域住民、各事業所、関係者と勉強会を開き絆を深めている。近隣の消防署、駐在所、喜入支所、小中学校、駅、商店街と利便性もよく信仰を深めている。春の花見、夏の六月灯・夏祭り、けんこうフェスタと地域のイベントにも参加している。また、毎月のアニマルセラピー(犬)との触れ合い、コーヒー療法で笑顔が増えたり、言葉が増えたり、癒し効果にもつながっている。住み慣れた喜入の地で認知症の専門的医療を受けながら生活できる施設である。また、孤独感を感じられないよう家庭的で落ち着いた環境の中で楽しく自分らしく生活できるホームである。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・母体が医療機関のため24時間医療連携体制が整っている。院長自ら認知症についての理解を深める為に、地域で講演をしたり専門講師を招き研修を実施している。
- ・自治会の総会に出席したり地域行事に積極的にに関わり、近くにある小学校のバザーにカレーライスを出店したり、運動会の見物をしている。小学生もハロウィンの時は仮装してホームに来て、利用者と楽しんでいる。地域の人が災害時用に、防災頭巾を手作りでプレゼントしている。
- ・利用者は、買い物袋たたみや洗濯物たたみ・食事の準備・後片付け・ミシンを使ったりと、一人ひとりの才能や自立性を引出し個性を大事にした支援に取り組んでいる。
- ・毎月1回の犬のアニマルセラピーのふれあいや理事長の手品に利用者は楽しんでいる。
- ・管理者や職員は明るく笑顔で支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念をパンフレット・はまゆう便り・推進会議等に記載している。また職員会議、申送り時理念を唱和し再確認を行っている。	朝の申し送りに毎回唱和し意識づけをしている。理念は玄関やホールに掲示し、パンフレットや運営推進会議資料にも毎回記載し、支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の総会・文化祭・六月灯・小学校の運動会等に参加し一緒に活動したりお手伝いを頂いたりしている。買い物・散歩時の知り合いとの会話も楽しみの一つである。	自治会の総会に出席したり地域行事に積極的に関わり、近くにある小学校のバザーにカレーライスを出店したり、運動会の見物をしている。小学生もハロウィンの時は仮装してホームに来て、利用者と一緒に楽しんでいる。地域の方が災害時用に、防災頭巾を手作りでプレゼントしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議や家族会等で、声掛けや援助の方法、成功事例を伝えたりしている。また地域の方からの相談にもアドバイスできるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>隣接のグループホーム・自治会長・交番・民生委員・家族・包括支援・主治医等参加しホームの状況を伝え、一緒に解決している。</p> <p>地域の問題・イベント等の情報交換も行い協力している。</p>	<p>定期的に会議を開催している。</p> <p>ホームの現状報告やヒヤリハット報告・行事報告などを行い、参加者から地域の課題などが出され、情報交換をして、サービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>地域の研修会や運営推進会議等で現状報告を行い、アドバイスを頂いている。また気軽に相談、連絡できる信頼関係を築いている。</p>	<p>介護保険の申請等で日頃から窓口に行き相談をしたり、電話でも話している。研修会や地域ケア会議にも参加し情報交換をしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>帰宅の訴えのある方、機嫌気分の悪い方、注意が必要な方に対しスタッフ間で声掛け、見守りを行っている。</p> <p>安全委員会、職員会議、カンファレンス時、身体拘束についての勉強会を行っている。</p>	<p>職員会議などで事例を出し身体拘束をしないことへの勉強会を定期的に行っている。日中の玄関の施錠もなく出入りは自由に行われている。帰宅願望が強く外出したい利用者には一緒に近所を散歩している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修会に積極的に参加し報告、勉強会に繋げている。また職員の介護への悩みを聞き、無理をさせない勤務体制になるよう、考慮検討する機会を作っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修会に参加し制度について学びその報告、勉強会を設け活用できるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>面会に来られた時、家族会等で不安に思っている事、困りごとがないか伺い、内容によっては理事長に相談し説明してもらっている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者や家族等の意見、要望を聞き職員会議等で検討しそれらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者からはくつろいでいる時などタイミングを見て個別にプライバシーを守りながら話しを聞いている。家族からも話してもらえるように面会の時は特に話しがしやすい環境作りをして思いを聞き、運営に活かしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の声、現場の声を聴いて意見交換が出来るようにしている。時に食事会を設け意見を言いやすい環境作りをしている。また理事長や院長に報告し意見を頂いている。	職員は管理者に相談しやすい状況で、気軽に質問やアドバイスを受けている。職員同士も仲がよく、勤務変更や職員間で話し合い、お互いを思いあい働きやすい職場になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が生きがいを持って働けるよう勤務調整、研修参加、交流の場を設けている。また研修への参加や努力を評価し給与に反映している。毎年個人目標を立てて取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師を招き院内研修を定期的に行い職員の意識、知識向上に努めている。また外部への研修参加資格取得の支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し同業者との情報交換に努めている。また他事業所を見学することにより、気づき学ぶ機会が増えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	主治医や介護支援専門員から情報を頂き、自宅を訪問し本人、家族との面談を実施し、生活習慣、環境等を把握し信頼関係を築いている。また定期的な訪問も実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの介護経過の労を労い困りごと、不安、要望を伺い安心して頂くよう定期的に訪問を実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主治医、本人、家族、前サービス担当者等と開始するにあたり、問題点等の意見交換をし検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の残存機能を把握し、出来る部分は自分でして頂き、できない部分は励まし、楽しみながらして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も一緒にレクリエーションに参加したり散歩や外泊など、家族や地域の方と過ごす時間、環境づくりを行っている。健康面に関しては随時、行事等は定期的に報告をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩、買い物、行事やイベント等に参加して頂き、地域の方と出会う機会を増やすよう支援し、触れあっている。また墓参り等することにより、落ち着き、安心感を得られている。	馴染みの友人・知人の面会者が多く、医療機関からの帰りに寄る人もいる。家族の協力で馴染みの美容室や店での外食にも行ったり、墓参りに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人の性格、身体機能、体調を考慮しながら作品作り、レクリエーションに参加して頂き、また利用者同士が会話が楽しめるような環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅訪問し家族の抱える悩み等を傾聴し、相談・フォローに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活支援を通し、発せられる言葉の中にヒントを見出し、思いを引き出せるようにしている。面会時はこれまで生活されて来た出来事や様子などを伺っている。	利用者が思いや意向が話しやすいように話しかけている。入浴時や夜間眠れない時などにゆっくりと生活歴などを聞き、意向を把握し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、これまで関りのあった方々から情報を頂き把握に努め本人の思いを大切にケアプランに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに沿った支援を行った上で、身体機能に適した内容であるか、毎月のカンファレンス時に意見を出し合い、検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が、家族に伝えている思いを家族から伺ったり、スタッフの関わりの中で情報を共有し、その人の望む暮らしの介護計画に活かしている。	入居前に関連機関などから情報を把握し、本人や家族の意向を踏まえた介護計画を立てている。毎月のカンファレンス、3ヶ月毎のモニタリング、6ヶ月毎の担当者会議を開催し、現状に即した介護計画を立てている。入浴時や夜間眠れない時の記録や日常の身体的精神的な変化を分析して担当者会議で話し合い計画を見直している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の経過記録、チェック表の内容、申送り帳など確認することにより、その日の様子や体調が把握できている。カンファレンス時、情報交換、共有し介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じ家族の協力を求めたり、身体機能の専門的なことは、他部署の助言、指導をもらっている。家族対応に困難が生じた場合は、理事長に相談し対応してもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に体調をみながら参加している。またボランティアの方の協力を頂き、一緒に歌を歌ったり、会話をしながらお茶を楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が定期的に2回、必要時、往診して下さり、日々の状況や体調を伝えている。また専門医受診が必要な時は主治医、本人、家族、職員と検討し職員が同行支援も行っている。	本人と家族の希望を聞きかかりつけ医の受診を支援している。月に2回の往診と必要時診察を受けている。歯科衛生士の口腔ケアや看護師の健康測定もあり適切な医療体制がある。急変事にも対応できるように医療連携体制ができている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常勤看護師によるバイタルチェックや、主治医への報告を定期的に行っている。特変事は早めに主治医へ報告し家族へ連絡をしている。また、隣接クリニックからの協力もある。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時の面会や情報収集や家族支援、退院前のカンファレンスも行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期における本人や家族の意向は、定期的に確認し、また主治医と連携し看取りプランの作成をしている。 本人、家族の意向に沿った内容であるか主治医と共に話し合いをし、穏やかな終末を迎えられるよう支援している。</p>	<p>重度化や終末期の方針を説明し同意を得ている。状態変化時に医師の説明を行い本人・家族の意向に沿った支援をしている。段階ごとに説明を行いながら家族と病院看護師と共有した支援に取り組んでいる。終末期や看取りも行える体制にある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>院内、院外研修への参加を行っている。毎月の安全委員会のAEDや危険予知についても実践している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害に対する備えや訓練の必要性を伝え、消防署の指導の元、昼夜想定防火訓練を年2回実施している。また地域の防災訓練にも参加し、家族会での報告や協力もお願いしている。</p>	<p>年に2回消防署の指導を受け避難訓練を実施している。各部屋の壁にかけてある防災頭巾をかぶり避難している。地域の方も協力してもらっている。備蓄の準備もある。今後は水害の訓練も検討している。地域の防災訓練にも参加している。地域の防災放送が流れ、地域情報が早く解る。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あらゆる生活場面での関わりの中で人格、プライバシーに関する事柄には充分気を付けて対応している。また勉強会を設け検討している。	個別に日常の生活場面で生活歴や現在の状況等を細かく観察し気配りの中でプライバシーの確保を行っている。ゆっくり話し焦らないように注意しながら自己決定できる関わりに気をつけている。部屋に入る時は声かけやノックをし了解のもと入室している。トイレ・入浴・居室のプライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の行動や言動、表情を観察しその人の思い希望を職員間で話し合い、共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくり焦らず、自己決定して頂けるような接し方が出来るよう、その日の体調、気分を見ながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	家族からの情報を頂き、朝夕の更衣時や入浴の準備時、本人の意思を確認し、身だしなみの手伝いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の機能に応じ、野菜の下ごしらえ、盛り付け、片付け等をお願いしている。また感謝の言葉を伝えることにより、本人のやる気に繋がっている。	個々の好みを把握して専任の職員が調理し形態や量を考慮し完食できるように工夫している。季節感のある物や誕生日食・行事食・おにぎり弁当等、楽しみにしている。利用者に協力をもらい、職員の見守る中、包丁を使い皮むきや野菜の下ごしらえ・片づけなどを職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや水分・食事摂取量、飲み込みの状態など、見守り、援助、記録している。また必要に応じ栄養士、主治医の指示ももらっている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがい、歯磨きを実施し、出来ない方には支援している。定期的に歯科衛生士に来てもらい口腔ケアの職員指導もお願いしている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方の排泄パターンを把握し、定期的に声掛けしトイレへ誘導し見守りや一部介助を行っている。排泄動作の訓練やPトイレなどの種類の検討も行っている。	排泄パターンを記録してトイレへの誘導を周りに気づかれないように支援している。失敗のないように自立に向けて早めの誘導を行っている。ゆっくり話し焦らないように注意しながら自己決定できる関わりに気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、食材、水分量、運動量、排泄時の姿勢など個々に応じて対応している。排便困難時は主治医に相談し内服の調整をお願いしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人に入浴の希望を聞きながら入浴援助を行っている。毎回拒否される人にはスタッフを変えたり、散歩の後に誘導している。入浴中はコミュニケーションを取りながら楽しい時間を過ごせるよう援助している。	週3回の入浴を心がけ早めの声かけですみやかな対応ができるようにしている。入浴が楽しくできるように笑いのある会話で支援している。希望により自由に入浴している。嫌がる利用者には担当者を交代したり、声かけを工夫している。シャワー浴で清潔保持に努める時もある。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明を付けたり、入り口を開けたり、ラジオを付けたり、入居者様が安心して休息できる支援を行っている。定期的に巡視、排泄介助、体交、水分補給を行っている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の種類や副作用など把握し、臨時薬が出た時は経過観察や報告を看護師、主治医へ報告している。服薬時は声に出し名前、日付の確認をし、飲んで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力、趣味などを把握し、楽しみながら参加できるよう職員と一緒にいる。また散歩や買い物、外出を楽しみにしている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調や天候、職員の人数を増やし遠出をしたり、庭先でお茶を楽しんだりしている。また家族との外出もお願いしている。	事業所周辺の散歩や中庭での外気浴・ドライブ・花見・外食など、日常的に体調や天候に合わせて外出している。家族の協力をもらい医療機関や近くの店に買い物に出かけたりしている。外食やお墓参りなどは家族の協力を得て出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される入居者様には、家族に説明し所持してもらっている。買い物時は、職員と同行し、支払いの見守りを行っている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族の都合のよい時間に電話し話をして頂いる。理解できない部分は、職員が代わりに伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、作品作りをして頂いているが、個人の意思を尊重し負担のないよう努めている。排泄や体調で問題のある方には、日頃から観察し見守り、声掛けなど行い皆が気持ちよく過ごせるよう支援している。	事業所は、天井が高く天窓があり明るい。中庭があり騒音や不快な刺激もない。キッチンからフロア全体が見渡せる。季節の花や行事の写真・手作り作品が掲示してある。空調も調整され畳のスペースやソファも置かれゆっくりくつろげ、レクリエーションを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでテレビを見たり、お茶を飲みながら会話を楽しんだり、洗濯物を畳んだり、裁縫をしたり思い思いに過ごせる空間づくりを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた品、写真、タンスなどを持ってきて頂いている。またベッドの向きなど安心できる環境づくりを行っている。	居室はきちんと整理整頓されそれぞれ家で使っていた机・椅子・大型テレビ・ミシン・コーヒ沸かしセットもあり、自分らしく生活している。布団は使い慣れた物を持ち込んでいる。家族が持ってきたぬいぐるみなどが飾られ安心して落ち着ける部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ケアプラン作成時、カンファレンス時、一人一人を評価し、自立支援を心掛けている。一人一人に関わる時間を出来るだけ多く設け傾聴している。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない